

1 平成 20 年度千臨技血液検査精度管理

2 (1)血算について

3
4 ○綿引一成(千葉県がんセンター) 古賀智彦(千葉
5 社会保険病院) 澤田朝寛(順天堂大学医学部附属病
6 院) 佐藤正一(千葉県循環器病センター) 柿沼豊
7 (千葉市立青葉病院) 麻生裕康(千葉県がんセンタ
8 ー) 大山正之(千葉大学医学部附属病院) 吉田隆
9 ((株)サンリツ)

10
11 【はじめに】現在使用されている自動血球計数装置
12 は、以前に比べ機種間差が小さくなったといわれて
13 いるが、依然として機種間差が認められるのが現状
14 である。今年度も生血を用いて実施したサンプルサ
15 ーベいの結果を集計し、解析したので報告する。

16 【方法】試料A、試料Bの2濃度を用いた。各施設
17 で使用している自動血球計数装置を用いて白血球数、
18 赤血球数、ヘモグロビン濃度、ヘマトクリット値、
19 MCV、血小板数、白血球5分類について実施した。

20 【結果】今年度の参加は104施設であったが、試料
21 の溶血・フィブリン析出がそれぞれ1施設ずつみら
22 れた。血球計数の結果は、白血球数、試料A・CV
23 18.0%、試料B・CV18.8%となり、バラツキがみら
24 れた。その他の項目については、データの収束がみ
25 られ良好な結果となった。白血球5分類の結果は、
26 白血球数同様バラツキがみられた。

27 【まとめ】本年度は、昨年度までの抗凝固剤CPD
28 液+EDTA(K2)ではなく、EDTA(K2)単
29 独で使用した。白血球項目でバラツキがみられた原因
30 としては、本サーベいは生血を使用していること、
31 試料作製から測定まで約2日間要してしまうためサ
32 ンプルの経時変化の影響などが考えられる。昨年度
33 までは、ヘモグロビン濃度のみで評価を行っていた
34 が、今年度は、バラツキのみられた白血球数・5分
35 類を除く項目を評価の対象とした。今回のサーベ
36 を集計するにあたり報告データの記入ミスや単位
37 の間違い等が散見されることから、結果報告に
38 関しては注意をお願いしたい。

39 連絡先 043-264-5431